

知ってる？
田んぼのカヤネズミのくらし



カヤネズミってどんな生きもの？

カヤネズミは、草むらにすむ、日本で一番小さなネズミです。体の大きさは大人の親指大（約6cm）、体重は500円玉1枚分（7～8g）しかありません。

春から秋に、おもにススキやオギなどのイネ科の植物の葉をさいて、ボール状に編んだ巣を作って子育てをします。1回の出産で、平均4～5匹の子どもを産みます。赤ちゃんは、生まれて10日で目が開き、20日ほどで巣立ちします。寿命は1年未満です。



カヤネズミと巣

食べ物と天敵

主食は、小さな草のタネや、バッタなどの昆虫です。天敵は、ヘビ、コミミズク、モズ、イタチ、カラス、ネコなどたくさんいます。



食事中的カヤネズミ

生息環境

カヤネズミのすむ草むらには、イネ科の植物がたくさん生えています。河川敷や休耕田のヨシやオギ、ススキなどの背の高いイネ科の植物がまとまって生える草むら（カヤ原）は、カヤネズミのよいすみかです。

昔は、ふつうにみられたネズミですが、生息地の草むらが住宅や工場に変わったり、環境が悪化して、全国的に数が減っています。滋賀県では「希少種」となっています。



芹川河川敷（滋賀県犬上郡多賀町）



休耕田のオギ原（滋賀県高島市）

田んぼのカヤネズミのくらし

農地にくらすカヤネズミは、休耕田のほか、畦や農業用水路の土手の草むらなどで巣を作ります。田んぼに巣を作ることもあります。

最近では、コンバインによるイネ刈りが主流になりましたが、「子どもの頃は、鎌でイネを刈っていたよ」という方は、イネの葉をさいて、玉状に丸めた巣を見たという思い出がある方も多いのではないのでしょうか。



イネに作られたカヤネズミの巣

田んぼと休耕田をいったりきたり

夏に田んぼの水が抜かれる「中干し」が行われると、周辺の草むらからカヤネズミが田んぼに入り巣を作ります。その後、イネ刈りで田んぼを追われると、ふたたび周辺の草むらに戻ります。

下の表は、彦根市開出今町の例です。除草剤を使っていない田んぼでは、除草剤を使っている田んぼよりもイネ刈りの時期が遅く、長い期間、巣が見つかりました。



イネ刈りの様子

カヤネズミの巣が見つかった時期

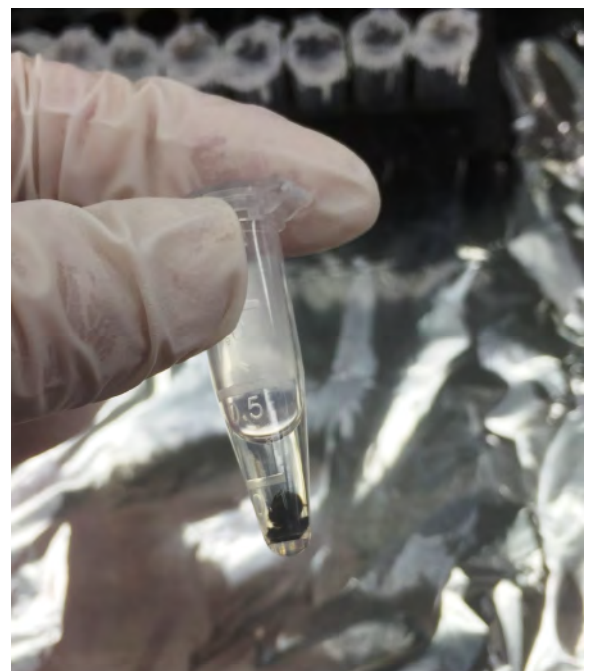
	6月	7月	8月	9月	10月	11月
水田(除草剤なし)			←→			
水田(除草剤あり)			←→			
休耕田			←→			

調査地：滋賀県彦根市開出今町 調査期間：2015年6月～11月

カヤネズミはイネを食べる害獣？

カヤネズミは田んぼのイネに巣を作るので、農家の方の中には「イネを食い荒らすのではないかと心配される方もおられます。これまでに、カヤネズミによってイネが大きく被害されたという報告はありませんが、カヤネズミは夜行性で、食事の行動を観察することが難しいため、詳しい調査は行われていませんでした。

そこで、カヤネズミが実際にイネを食べているのかを明らかにするために、フンのDNAを調べることにしました。カヤネズミが食べたものは、フンとして排せつされるので、フンのDNAを分析することによって、何を食べたのかを知ることができます。



2015年6～11月に、滋賀県彦根市開出今町の田んぼと休耕田でカヤネズミの巣を探しました。巣の中に残っているフンを取り出し、イネ、イヌビエ、スズメノヒエ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴのDNAが入っているかを調べました。イヌビエとスズメノヒエは、どちらも田んぼの中で増えるため、農家の方に嫌われる代表的な田んぼの雑草です。バッタやイナゴの仲間は、イネや野菜の葉を食害する昆虫です。

分析を行った結果、多くの巣のフンから、イヌビエとスズメノヒエのDNAが見つかりました。イネのDNAが見つかったのは、休耕田の巣1個だけでした。このことから、カヤネズミはイネよりも、イネの害になるスズメノヒエやイヌビエをよく食べており、イネを食害することはほとんどないことがわかりました。

カヤネズミの巣が見つかった場所と、食べ物の種類(数字は巣の数)

	田んぼの巣	休耕田の巣
イネ	0	1
イヌビエ	6	2
スズメノヒエ	7	14
オンブバッタ	1	0
ショウリョウバッタ	0	0
コバネイナゴ	0	0
DNAテストに用いた巣の数	11	18



イヌビエ



スズメノヒエ



オンブバッタ

— お願 —

イネ刈りや畦の草刈りでカヤネズミの巣を見つけたら

イネ刈りや、畦の草刈りをしている時に、カヤネズミの巣が見つかることがあります。もし巣が見つかった時は、できれば巣の周りを1~2mくらい刈り残していただくと、親が安全な場所に子どもを引っ越しさせます。

イネや草を刈り取ってから、巣があることに気づいた場合は、刈った場所の近くに草をよせて、その中に巣をおいておくようお願いします。

*カヤネズミは鳥獣保護法により、農林業活動上のやむを得ない場合を除き、捕獲には知事の許可が必要です。また、許可を受けずに飼育することはできません。

良好な水辺や草地の指標生物、カヤネズミ

草を編んだ巣で子育てを行い、草むらで一生を過ごすカヤネズミは、良好な水辺や草地環境の指標生物とされています。カヤネズミがすむ田んぼは、他の生き物にもすみやすい、多様性豊かな環境といえます。

もし、田んぼでカヤネズミに出会ったら、どうかそっと見守って下さるよう、お願いします。



「知ってる？ 田んぼのカヤネズミのくらし」

2016年5月31日発行

執筆・発行責任者：畠佐代子（滋賀県立大学環境科学部非常勤講師・客員研究員）
滋賀県彦根市八坂町2500 滋賀県立大学環境科学部 高倉研究室気付
連絡先：kayachu@gmail.com

協力：高倉耕一（滋賀県立大学環境科学部准教授）
写真提供：丹下研也・中西康介

表紙写真：滋賀県彦根市開出今町の田んぼで見つかったカヤネズミ

このパンフレットは、公益信託タカラ・ハーモニストファンド平成27年度研究助成を受けて作成しました。

